

太田記念病院産婦人科の2023年4月以降の診療体制について

太田記念病院産婦人科の診療内容について市民の皆様には状況を知っていただき、ご理解・ご協力を仰ぎたく、ここに筆をとりました。現在いる医師は実質常勤医1名と非常勤医約10名で、ハイリスク産科診療と良性腫瘍手術対応、救急疾患の診療に従事しております。以下、特に産科診療を中心に詳しく説明いたします。

当院産婦人科は東毛地区（太田市、邑楽郡5町、館林市）約40万の人口に対して、分娩と手術を取り扱うことのできる唯一の産婦人科です。さらに、NICU（新生児治療室）を6床備えた地域周産期母子センターとして早産（妊娠37週未満の分娩のことで、早産児に対しては小児科の医師による治療が必要です）、合併症妊娠（甲状腺・糖尿病などの内分泌疾患、高血圧などの循環器疾患、喘息などの呼吸器疾患を妊娠前から患っている方）、産科救急（分娩時の大量出血など）に対応しております。

お産は新しい命が生まれる瞬間を実感できる素晴らしいものですが、すべての方に幸せな瞬間が訪れるとは限りません。妊娠中に胎児に大きな奇形が見つかったり、分娩中に胎児の状態が悪くなったため緊急帝王切開が必要になったり、妊娠には常に予想できないリスクがあります。母体に合併症があったり、過去に早産を経験された方、高齢、肥満、双胎などの方はさらにリスクが高くなることが知られており、一般にハイリスク妊娠と言われていきます。開業医の先生で管理されている妊婦さんが、妊娠中・分娩中・分娩後に状態が急変した場合には当院で治療する必要があるため救急車で転院となることがあり、これを母体搬送と言います。当院産科はハイリスク妊娠の管理、母体搬送受け入れを使命としております。

具体的には当院で妊婦健診・分娩を行う方はハイリスク妊娠に限定させていただいております。ご自宅で妊娠反応が陽性となった方はまず近隣で開業されている産婦人科を受診してください。診察された先生がハイリスクと判断された場合は当院に紹介状を書いて下さいますので紹介状を持参して受診して下さい。

婦人科についても手術など治療が終了した方や病状が落ち着いており半年～1年に1回の経過観察のみとなった方や薬の継続的処方につきましては地域の開業の先生に診ていただくようにお勧めしています。これを病診連携といい、太田記念病院が推進している方針に基づいていることをご理解ください。また外来の負担を少なくすることで手術や分娩に注力することができます。

最後になりますが、当院産婦人科は東毛地区になくてはならないものであります。産婦人科を守っていくために我々は今後も尽力していく所存ですが、厳しい現状を何卒ご理解頂きたいと存じます。